

新刊 ぴっくあっぷ



「死の濃霧」コナンドイル他著 延原謙訳 論創社／日本で初めてシャーロック・ホームズ物語を個人全訳した延原謙。その訳業を大正時代から昭和30年代にかけて俯瞰する翻訳セレクション。コナン・ドイル「死の濃霧」、マルセル・ベルデュ「ロジェ街の殺人」など全14作を収録。
*933T



「賢者たちの街」エイモア・トールズ著 早川書房／1937年の大晦日。25歳のケイティはジャズバーで若き銀行家ティンカー・グレイと出会う。偶然の出会いは、つましく暮らしていた読書好きのケイティを、ニューヨークの上流社会の旅に導くことになる。*933T



「農業のしくみとビジネスがこれい冊でしっかりわかる教科書」窪田新之助 他著 技術評論社／スマート農業、ニューハイオ、バイオステミュラント、フランチャイズ農業…。農業の実情・農産物の最新動向から日本農業の世界戦略まで、農業の必須知識を、豊富な図とともに丁寧に解説する。
*612K



「手作りしたいみんなの浴衣と甚平」プティック社／コットン地で作る浴衣や甚平を中心、反物で作る浴衣や2wayで着られる浴衣、女の子の甚平ドレスの作り方を紹介。着付けや帯結びも写真で解説します。*593T



「美女ステイホーム」林真理子著 マガジンハウス／体重が倪いのように増え続けている。それなのに、ひょっとして、何度も目のモテ期到来か!? 令和もマリコは笑顔で運を引き寄せる。
*914H



「あした、ハーブを植えよう 植物のチカラで家族を守る」山本真理著 光村推古書院／初心者でも気軽に育てやすく、かつ使い勝手抜群の8種類のハーブをリストアップ。たくさん収穫するコツや、2年目以降の育て方のヒント、目的の薬効を引き出すテクニック等、活用法を紹介。料理のヒントも収録。
*617Y

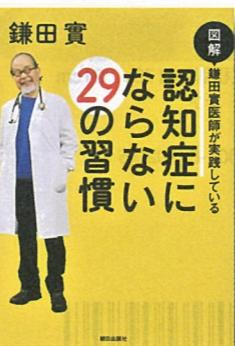


「作りおき&帰つすぐでき!糖質オフのやせる!ラクマレシピ350決定版!」江部康二著 ナツメ社／週末に冷凍と冷蔵の作りおきを仕込み、平日はそれらと速攻でできる時短おかずを組み合わせるだけ。簡単に作れて、毎日飽きずに食べられる糖質オフレシピを多数紹介する。挫折しないためのコンビニ&外食活用術も収録。
*596I

「あの子の殺人計画」天海涼著 文藝春秋／風俗店オーナー殺人事件の美貌の容疑者が仕組んだアリバイトリック。捜査の鍵を握るのは、母親から虐待されている娘の証言だった…。「子どもの虐待」をテーマに現代社会の闇に挑む傑作ミステリー。
*F4A



「女と男なぜわからあえないのか」橋玲著 文藝春秋／「美人はいじわる」は本当だった!! 男は52秒に一度性的なことを考えている!! けっきょく「見た目がすべて」!! 男と女の違いを最新のサイエンスによって解明する。
*491タ



「図解 鎌田實医師が実践している認知症にならない29の習慣」朝日新聞社／ふだんの習慣を少し変えて、一生、楽しい生活を続けてましょう。72歳になる著者が日ごろ実践している認知症予防の習慣を紹介。コロナに負けない7つの習慣も収録。
*493K



「自分と相手の非認知能力を伸ばすコツ 家庭、学校、職場で生かせる！」中山芳一著 東京書籍／「正解」ではなく「納得解」を見出す力で先の見えない時代を生き抜く! 子どもも大人も、いつもの暮らしの中で非認知能力が伸びる・伸ばせる心がけと具体例をイラストを交え紹介。
*371ナ

としょかんだより

【下條村立図書館 147号 2020年7月15日発行】

コロナ対策でなにかと気を使うなか、梅雨が明けず大雨が続いている。警報が発令され、九州、岐阜…長野県内は南信にも災害の危機が訪れました。村内でも土砂崩れ等多くの被害が出ており心配な日々です。しばらく会っていない…かがやく太陽の姿をはやく見たいものです。

つどいの広場

下沢洋子先生と絵本を楽しもう

子育て支援センター「すくすく」は、2018年にあしたむらんど上段(ヤングコミュニティハウス隣)にオープンし、つどいの広場(未就園児の子育て相談・交流の場)と児童クラブのための専門施設としてスタートしました。

つどいの広場は、昨年まで火・木曜日の9時30分から13時まで、多くの乳幼児とお母さんに利用されてきましたが、今年度からは金曜日も開館となり、時間も15時までと延長されました。子育て支援員の生嶋利子先生が年間計画を立て、専門講師による絵本、わらべうた、ストレッチ、親子遊びなどを定期的に開催しています。なかでも絵本やわらべうたの回数が多いのは、子育てに日々必要なものだからと考えられます。こうした教室には、毎回楽しみに参加する親子の姿が大勢あります。



下沢洋子先生（ガンバの会主催）

6月12日(金)、つどいの広場で今年度初の「下沢洋子先生と絵本の世界を楽しもう」が開催されました。この日はコロナ対策による休館明けで、参加者の人数に気を使いながらの開催。検温、消毒、マスクをし、座る位置もいつもより少し距離をとって広がりました。



下沢洋子先生の絵本の読み聞かせを聞く参加者の皆さん

動物の姿に見入る参加者親子は、その“生命力”を細部(血管や毛の一本一本)まで鮮明に描く“薮内さん”的の思いを受け止めるかのように、絵本に引きつけられています。

絵本と子どもの持つ力を信じ、あたたかく、自然に、とてもうれしそうに絵本を読む下沢先生の姿は、子どもにも大人にも安心を与えているようです。「本を読むことは、その声を通して、物語といっしょにさまざまな“よいもの”が、聞き手の心に流れ込む」ということがよくわかります。

季節に合ったいろいろなジャンルの絵本、子どもたちが楽しめ、お母さんにも伝わる絵本を5冊。わらべうたや童謡等、最後まで子どもたちを引きつけながらの45分間。先生の絵本への思い、作者や画家のエピソード、絵本づくりの裏話等も聞くことができ、もっともっと絵本の世界を知りたくなるひと時でした。

この会が、「家でも子どもたちに絵本読んであげよう」という親から子への贈り物になることを願います。

もくじ 1p:つどい絵本の会 / 2p:図書館コロナ対策 / 3p:建設労連さんの修理 / 4p:新刊ぴっくあっぷ

図書館のコロナウイルス対策

1月、中国武漢で新型コロナウイルスが発生し、瞬く間に全世界に広がりました。

今までにない感染力とウイルスの強さに、人類はどこまで対抗できるのか？大きなテーマとなっていきます。人と会い、話し、積極的にかかわることが社会的に最も必要とされてきた人間の生活にとって、人の接触をしない生活を強いられることは、非常に不自然なことです。しかし、ワクチンができるまではこうした生活が続くことが予想され、この先もしばらくの間は人との接触に気を付けていく必要があります。

そんななか、図書館ではどのような対策をしているのかをお伝えします。

2月

18日～手洗い、マスクをつける、手指消毒のお願い

職員が館内のアルコール等でのふき取り消毒開始

28日～小・中学校の休校が始まる⇒「村図書館利用は保護者同伴でのお願い」

(長時間子どもだけでの滞在を控えていただく)

利用は資料(本・DVD)の貸出・予約のみ⇒春休み中も続く

4月

15日～図書館カウンターにプラスチックパネル(役場総務課)設置

21日～県内緊急事態宣言発令

村内施設の多くが休館、利用制限が厳しくなるなか、

図書館はゴールデンウィーク開館決定⇒郡外居住者(帰省者含む)の入館禁止

図書館利用の滞在時間を30分以内とする

28日～除菌のため、返却本の表面を拭くことを開始

30日 カウンターに、さらにビニールシート(厚手)を設置



5月

2～3日、5～6日 GW4日間のみ、来館者に確認票を記入していただく

(郡外からの来館者の確認のみ。確認票は2週間後に廃棄)

12日 臨時議会にて、除菌・抗ウイルス剤購入費予算、可決(返却本清拭用)

18日 図書館利用時の条件「保護者同伴」を解除

22日 おなじく「郡外からの入館不可」を解除

イベント等の講師は県内からであれば可、参加者は少人数であれば開催可となる

6月

2日～図書館利用についてのすべてが可能となり、滞在時間は1時間以内とする

10日 議会にて図書消毒機購入費予算、可決(9月ごろ使用開始予定)

28日 「キラキラせっけんづくり教室」…8人限定で2回実施

7月

1日～図書館開館の全ての利用制限を解除する



【図書館で気を付けていくこと】

- ①換気
- ②館内の消毒
- ③イベント開催時の人数制限・検温など

【利用者の皆さんに、お願いしていくこと】

- ①体調の悪い方の入館は、ご遠慮いただきます。
- ②距離を保ちながらの利用に、ご協力をお願いします。
- ③来館時には、マスクの着用、入り口でのアルコール消毒をお願いします。

飯下建設産業労連下條支部 の皆さんに修理していただきました。

6月21日(日)の午後、飯下建設産業労連下條支部のみなさん(3名)が、図書館奥の雑誌棚の修理に来てくださいました。今回修理をお願いしたのは、雑誌の新刊を置く棚の基底部(タイトル部分)がゆるんでグラグラしていたいくつかの棚です。あつという間に、詰めてネジ止めして完了!ものの5分ほどで直していただきました。これまでも、

- ◆丸テーブルの擦り切れを研磨
- ◆大型窓の取っ手のゆるみを調整
- ◆館内の壁の穴をふさぐ
- ◆ロビー雑誌棚の破損の修理
- ◆野外読書コーナーのベンチの木の張替え



などなど毎年お願いし、確実に直していただいている。おかげさまで、利用者の皆さんも気持ちよく利用できています。図書館開館から25年となります。建設労連の皆さまの修理のおかげで、まだ当初のように使うことができています。

手作りマスクをご寄付いただきました!

5月23日(土)、村内在住の方から子ども用(幼児～小学生向け)の手づくり布マスクをご寄付いただきました。「子どもが大人用のマスクをついている姿をよく見かけることがあったので、子ども用を作りました。よかつたら使ってもらってください」とのお話でした。



男の子用と女の子用それぞれ30枚ずつ、合わせて60枚あります。すべて「家にある端切れで作りました」とのことです。

包装紙とつまみ細工で飾られた箱に、ビニールで個別包装された手づくりマスク。様々な模様や柄がきれいに並んで、作った方の心が伝わってくるようです。大勢の方が喜んで持ち帰りました。



寄付された子ども用マスクを選ぶ親子。本を借りた人(子ども)に、一枚選んで持ち帰ってもらいました。